

皆様御存知かも知れませんが、井上(晃)先生が西宮市民文化賞を受賞されました。おめでとうございます。

先週の日曜は恒例の黒豆狩り、台風のため残念ながら中止となりました。奥村さんと尾川さんには大変御迷惑をおかけしました。

今年から大リーグが時間短縮を目的に、敬遠の意思を示せば投げずに四球が成立します。大リーグの制度変更は日本のプロ野球に波及する可能性もあり、同調するかもしれません。プロ野球の歴史で敬遠の球を打ったのは1960年長嶋茂雄が1シーズン3本もヒットしており、1999年には阪神の新庄が巨人の槇原からサヨナラヒットを打ったシーンは皆様覚えておられると思います。

また敬遠しているときに暴投で決勝点を与えており、過去1952年の国鉄の金田正一82年阪神の小林繁が暴投をし、サヨナラ負けしています。ですから敬遠中でも何が起きるかわからない、敬遠中も野球をやっているわけですから、ボールも生きているわけです。それが野球本来の「間」やらそこから生まれる「ドラマ」が見られなくなる可能性もあります。

敬遠中にブーイングを受けている投手と敬遠されている打者の次の打者の表情とか、心理状態を考えることも魅力の一つだと思いますし、四球にも野球の醍醐味を感じる「たかが敬遠、されど敬遠」。大リーグでは3試合に一回程度しか敬遠がないそうで、3試合では2分早くなることに対して賛否両論があると思いますが、私はないほうがいいと思います。

また今年も敬遠を体験したイチロー選手は、投手とのタイミングを計り「空気感」を伝える敬遠を戻してほしいと言っています。

本当に短縮が目的ならストライクゾーンを広げるとか、他にやるべきことがあり、大リーグで導入されているからといって、なんでもかんでも取り入れるのはどうかなと思います。

野球は国際ルールに基づいて行われていますし、世界大会(WBC、オリンピック)もありますから、日本だけ導入しないというのは難しいかもしれません。